

## 『みんなのスポーツ』8・9月合併号（No.506）から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の8・9月合併号は「**企業との連携による地域スポーツの活性化**」の特集号です。

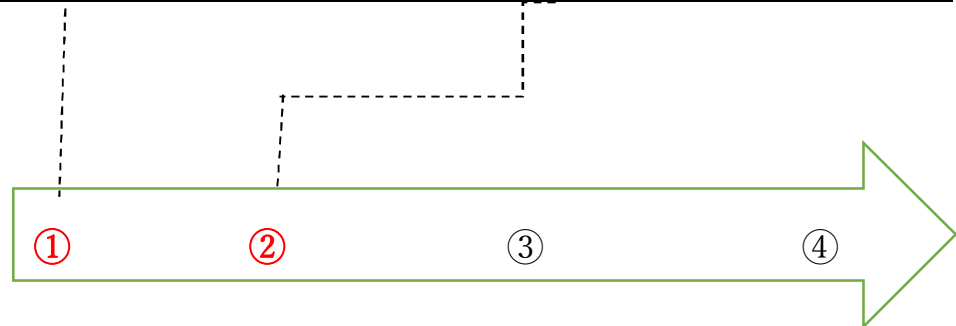
私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を4点記載します。



- (1) **表紙の写真に目が留まる。** アイマスクをつけたさいたま市立大宮国際中等教育学校の授業の様子が目に留まった。ゴールボールの一場面かと照会場面のコメントを探した。その後、表紙の裏をみたら東日本大震災の復興の象徴として整備された「石巻南浜津波復興記念公園」の写真掲載とコメントが書かれていた。3.11の震災の後に何度か復興支援の度に訪れた場所がきれいに整備されている。胸にこみ上げるものを感じた。
- (2) **特集 企業との連携による地域スポーツの活性化** 私が勤めていたころは、会社も色々なスポーツを支援していた。都市対抗野球の時期になると、職場全体で応援に出かけていた。応援に行くために仕事の段取り他も工夫して取り組むために生産能率もよくなったことを感じている。また、秋口からはバレーボールにバスケットボール、サッカーにラグビーとほぼ毎週末は応援に分担して出かけていた時もあった。  
横須賀は Dena ベイスターズやマリノスの練習場もあり、地域との関係を高める行事も行われている。これらの行事にスポーツ推進委員がかかわる場面は少ないが、私は時間を作り出かけている。委員の意識高揚などのためにも関わる場の創出や取り組み方他に、巻頭言の寄稿者で神奈川県会長の記事にもあるように、せっきくの資源を活用できるようにするために自分は何をすべきか考えています。
- (3) **事例1 スポーツの力で村を元気に！ 地元事業者との多様な連携 燻恋村**の内容を読んで、後半部分に記載されている今後に向けての中に「市内の部署連携や地域事業者との連携」を踏まえて、地域の課題を解決する手段として、スポーツを通じた多世代・他地域との交流を実現可能とする。同感です。市の規模からして多くのスポーツ推進委員が地域ごとで、これまで培った経験を活かし、住民の方の健康・スポーツに対する意識向上、生涯スポーツの推進と健康意識の向上といった相乗効果を図り地域の活性化にもつなげていきたいと考えています。  
5月に見学にでかけた、グラウンド・ゴルフ大会では、協会が企業の冠をつけた大会を行っている。昨年まで二つだったが、今年の行事予定を見たら三つに増えている。今後協議会もこれらを参考に考えてみたいとも感じています。
- (4) **コーチングとは、**個人やチーム、組織が掲げる目標を達成するために必要なスキル・知識・考え方を身につけ、自発的に行動し、成果を上げる手法を指しています。より良いコミュニケーションを図りたいと思っていますが、中々上手にいかないのが悩ましい所です。

本号では、コミュニケーションの阻害要因4つと改善策がある中で、始めの2つ（言葉にする、発音する）について紹介がありました。

	言葉にする	発音する
よくない方法	誤解を与える言葉の選択	不快感を与える話し方
やってみたい方法	理解しやすい的確な言葉の選択	期待が伝わる話し方



良くない方法、やってみたい方法を具体的に事例あげながらわかりやすく紹介されている。



← 気づいた点(3)の事例  
24年5月のグラウンド・ゴルフ大会の横断幕

今月号では4つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？

\* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上